

2025年3月23日（主日礼拝）

■招詞 ヨエル書 2:12-13a 「今こそ、心からわたしに立ち帰れ／断食し、泣き悲しんで。
衣を裂くのではなく／お前たちの心を引き裂け」

■礼拝の祈り

天におられます、イエス・キリストの父なる神、わたしたちの父なる神代、
<礼拝の招きへの感謝>

この朝も、あなたの招きにしがたって、こうして礼拝を捧げるために集まって参りました。レントを過ごしております。主イエスの十字架が、わたしたちの救いであることをあらためて確かにする時です。この恵みによって、主イエスがあなたのもとへとわたしたちを導き入れてくださったから、わたしたちはこうして礼拝をささげることができます。

<神の御前での罪の告白と悔い改め>

だからこそ、祈り深く歩みたいと願い、主イエスの十字架を見上げようとしたとき、自らの罪深さに気づかされます。あたかも自分には罪などいっさいないかのように暮らしてしまいました。人を傷つけたまま知らぬふりをして過ごしてきました。なによりもこの恵みに気づかず、自分の力で生きていけるかのように、自分だけが正しいかのように思いあがっていました。レントのあいだに見ることは、自分がいかに悔い改めから遠い者であるかということです。いかに祈りが足りないかということです。

主イエスが必死に祈られたのに、自分は祈りを避けていました。肉の弱さに負け、心は眠ってしまいます。主のみ足のあとに従おう、主イエスの背中を見つめて歩こうと何度も自分に言い聞かせることがあっても、すぐにそこから逸れてしまいました。それどころか、あなたのことをいらないかのようにふるまったり、あなたが自分の都合よく動いてくださるかのように思い込んだりし、そうでないときに不平不満をいいました。なによりこの罪は隣人への行いにおいてあらわにならざるを得ませんでした。愛するのではなく関係を絶ち、自分の方が正しくて、お前は間違っている、と心の中で思い続けていました。

主よ、どうかもう一度、十字架を確かにさせてください。わたしたちのために主イエスが苦しまれ、十字架におかかりになったことをもう一度思い出すことができますようにわたしたちの心をやわらかくしてください。わたしたちは主の十字架によってすでに赦されたことを確かにさせてください。わたしたちがその喜びの中を生きていることを思い起こさせてください。主イエスの復活によって、わたしたちはあなたがくださった新しい命に生きている、あなたの愛に生きていることを確かめさせてください。

<御言葉が語られ、聞かれるため、聖霊の働きを求めて>

そのために御言葉をお与えください。わたしたちがあなたからの愛を受けるにふさわしくないことは、あなたをご存知です。それでも、だからこそ、あなたはわたしたちに御言葉を通してあなたの愛をくださることを信じます。かたくななところを溶かしてください。わたしたちの心と体のすべてに御言葉をしみわたらせてください。主イエスに救われた真実の姿に目覚めさせてください。主の赦しと甦りのいのちの中に固く立たせてください。

主イエス・キリストのお名前によって祈ります。

2025年3月23日（主日礼拝）

■教会の祈り

<礼拝感謝>

<受難節の歩みを十字架の歩みとしてください>

受難節を歩んでいます。主の十字架を見上げようとするほど、自らの小ささ、罪深さを思います。どうかこの時を悔い改めの時として、ますます深く祈ることができるようにしてください。この間にも、主は恵みの光をわたしたちに照らしてください。主イエスの命の光の中でイースターまで歩ませてください。今週行われます受難週祈禱会を深い祈りを持って過ごすことが出来ますように

<復活の恵みの中を歩ませてください>

受難週であっても、いえ受難週だからこそ、イースターの光が今ここでも輝いています。主イエスはすでに復活なされ、わたしたちはその主のイエスの復活の命に生きているからです。

<苦難の中にいる人を救ってください>

今苦難の中にいる人を救ってください。心や体に病がある人がいます。癒してください。自然災害で親しい人を失い、いまだその傷の癒えない人たちがいます。住むところを失い、帰るところがない人がいます。助けてください。戦争で、命をおびやかされている人たちがいます。あなたが平和をもたらしてください。主がわたしたちの命を救ってくださったのですから、わたしたちも同じように手を差し伸べることが出来ますよう、あなたの御用のためにお用いください。

<悔改めの祈りの中を歩ませてください>

レントの歩みを続けます。十字架を見上げ、悔改めの中を歩ませてください。

■祝福

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。